

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4079600377		
法人名	有限会社 ベストケアカンパニー		
事業所名	いきいきハウス池尻		
所在地	福岡県田川郡川崎町大字田原345番地15		
自己評価作成日	令和7年2月1日	評価結果確定日	令和7年2月28日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポートうりずん
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号
訪問調査日	令和7年2月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然豊かな緑に囲まれた「いきいきハウス池尻」は、活気あふれる毎日を送っている。リビングでは会話が絶えず、今日もどこかで聞こえる「思いやりの声」は心温まる日常である。まだまだ、感染症対策に追われる毎日であるが、地域の方のご協力のおかげで変わらない付き合いが継続でき、利用者の楽しみの場となっている。例年実施している地元小学校との「七夕交流会」は、今回初めて事業所側に招致することができ、かけがえのない時間を共有できた。今後も理念とケア目標の実践に励み、地域とともに歩んでいきたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

朝礼時に継続している理念の唱和はケアを振り返る機会となり、今月のチャレンジ目標に「入居者さんとたくさん話そう」を掲げ、入居者に楽しんでいただくことが1番と、恒例の七夕交流会で日頃の体操の成果を披露している。今年度からBPSDの発現防止や早期対応にチームで努め、理念の「その人らしい」暮らしの実現に取り組んでいる。小学4年生30名が前準備や七夕当日と2回来所し成功裏に終わった七夕交流会の集合写真や獅子舞の来訪時の笑顔満載の写真は、永年の地域交流の賜物となり、家族に写真を多用した個別やホーム全体の便りで運営状況や入居者の暮らしぶりを報告し、ホーム全体の便りは配付先から高い評価を受けている。この度試験的な介護ロボット導入で生産性の向上を図るなど、家族や地域、関係機関の信頼を培い、日々地域に密着したサービスが展開している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

ユニット/
事業所名 **いきいきハウス池尻**

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念とケア目標を掲示し、朝礼にて唱和を行っている。理念に沿った支援ができるようスタッフと管理者間で情報を共有し、ミーティング等で振り返りを行っている。	朝礼時に継続している理念の唱和はケアを振り返る機会となり、今月のチャレンジ目標に「入居者さんとたくさん話そう」を掲げている。何より入居者に楽しんでいただくのが1番と、七夕交流会で日頃の体操の成果を披露している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	神幸祭の際には、地域の方が獅子舞を披露してくれたり、例年開催している地元小学校との七夕交流会は今回初めて事業所側に招致した。地域とのつながりは、日常的に継続でき、利用者の活力となっている。	恒例の七夕交流会は、小学4年生30名が自己紹介や本番に向けた準備、そして七夕当日と2回来所し、成功裏に終わっている。廊下に掲示された七夕交流会の集合写真や獅子舞の来訪時の笑顔満載の写真は、永年の地域交流の賜物となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民向けの活動は大々的に行っておらず、現在も中止の傾向にあるが、実施する際には、受託する予定。地域の方には、介護相談等が気軽に行えるように情報を発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所内の取組や状況について報告し、話し合いを行っている。構成委員からの意見や要望、地域の状況等の連携が図れ、サービス向上に繋げている。	家族や自治会長、関係部署職員等の参加で開催し、運営状況やヒヤリハットなどを報告している。職員の体調や消防訓練の課題、入居者の外出や外泊に関する意見や質問に印字の色を変えて作成した会議録は、全家族に送付し、ホームページで公表している。	運営推進会議を活かした取組みを促進するために、会議案内状とともに運営状況を前もって送付したり、防災などのタイムリーな議題を上げるなどの工夫を期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者や地域包括支援センター・福祉事務所との連携は密にしており、相互訪問により協力関係を築いている。また、空き情報等の共有も随時行っている。	地域包括支援センターからの入居紹介や相談も多く、日頃から関係部署と報告・連絡・相談体制を構築している。運営者は、様々な課題を抱えた入居者を福祉の理念に則り支援したいと話している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所の方針として原則身体拘束を行わないケアを実施している。今後啓発が必要な事項についても周知徹底を図り、グレーゾーンとなる不適切ケアの有無も含め、身体拘束をしないケアに努めている。	法人全体で身体拘束適正化や虐待防止委員会、研修を定期的開催し、運営推進会議で報告している。「トイレに行きたい」に即対応できない場合は、「5分待つて」など具体的で納得できる説明でスピーチロックを回避し、暴言や妄想など被害的発言に穏やかに対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年2回以上の研修を通じて学ぶ機会を設けている。また、プライバシーや不適切ケアも含め、虐待に繋がる環境でないかを委員会やミーティングを活用して振り返りを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度の活用対象者はいないが、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学習する場を持ち、利用者家族やその関係者に対し、説明が出来るよう、パンフレットや資料を準備している。	日常生活自立支援事業や成年後見制度の活用はない。随時利用を支援するために、パンフレットなどの資料を整備し、重要事項説明書に制度の問い合わせ先や事業の相談窓口を記載している。	今後さらに多様な家族構成が予測されることから、成年後見制度や日常生活自立支援事業の夫々の内容やその違いを学ぶ機会を設けられることを期待します。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	書面を提示し、補足を加えながら、分かり易い説明を心掛けている。説明後に必ず納得、了承を得ており、変更や改定が生じた際には速やかに再度説明を行なう機会を設けている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来所時や電話等にて状況報告を行い、要望や意見を受付けている。要望等はミーティング等で共有し、運営に活かしている。また玄関には意見箱を設置している。	入居者の意見は実現に努め、家族には来訪時だけでなく、定期的に発行している写真を多用した個別やホーム全体の便りで運営状況や夫々の入居者の暮らしぶりを報告し、意見を伺う機会としている。家族からの意見はないが、協力医療機関や町社協に配付しているホーム全体の便りは、制作ノウハウの教授を求められる程高い評価を受けている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者及び管理者は電話や面談する時間をつくり、個別に意見や提案を聞く機会を設けている。また、運営に反映させられるよう、ミーティングの場を設け、調整を行っている。	定期的なミーティングや個別面談だけでなく、その都度話し合う機会を設けるなど、意見を出しやすい環境づくりに努めている。洗濯機やエアコンなどを購入し、連絡ノートで会議内容を共有している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、管理者や職員個々の能力や実績を適切に評価し、各自のモチベーションアップや向上心につながる職場環境を整備している。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集・採用に関しては国籍・年齢・性別等の制限はしておらず、福祉人材として適切な方であれば経験を問わず採用を積極的に行っている。現職で働く職員に対してもワークライフバランスや家庭の事情を考慮して勤務時間の調整や働き方に配慮した対応を行っている。	ハローワークを通じた採用で、40代～50代後半の男女の職員が夜勤専従を除き正規職員として勤務している。多様な介護サービスを展開する法人内の異動もあり、実践者や管理者研修、基礎研修等の受講に係る費用を支援し、この度生産性向上を図るために試験的に介護ロボットを導入するなど、働きやすい職場づくりに取り組んでいる。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権学習等で啓発活動を行い、個人情報を含むプライバシーや言葉遣い等に関して、日頃から注意し、ミーティング時に振り返りを行っている。また人権擁護の観点からカスタマーハラスメント等に関して研修を実施するようにしている。	人権や虐待に関する内外の研修参加や実施で、人権教育や啓発活動に取り組んでいる。入居者のみならず職員の人権を擁護するために、運営規程や契約書にカスタマーハラスメント防止を明記し、対応マニュアルの作成を予定している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症介護実践者研修等の研修受講を積極的に法人から推薦し、キャリアアップの機会を提供している。また、研修に参加出来るよう、勤務シフトの調整や情報提供、受講支援を行っている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	他法人や医療機関との相互訪問により同業者との交流が図れている。また、介護サービス事業所連絡会や市町村の研修に参加し、ネットワークづくりに努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	インテークの段階から、不安点や要望等を聞き取り、事業所の様子等を詳細に伝えながら、不安解消に努めている。入居後も心理面のサポートを継続し、会話や仕草の中から要望を汲み取る等、関係づくりに努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前より不安点や要望等を伺い、アセスメントを行っている。入居後は、本人を職員と一緒に支えていくチームという形でコミュニケーションを大切にし、要望等が出しやすい関係作りができるよう努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人及び家族の意向を伺い、必要としているサービスを見極めている。認知症だけではなく、加療中の方が殆どであるため、その他のサービス導入がスムーズに開始できるよう支援している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	支援する、支援される立場という関係ではなく、可能な限り、洗濯物たたみや掃除等の役割を個々で発揮していただき、共存する関係性を築いている。		
21		職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	感染対策を踏まえた上であるが、家族との外出や面会等は要望に合わせて実施している。可能な限り大切な時間を過ごせるよう、共に本人を支えていく関係を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族との外出等については体調に合わせてながら極力お願いしている。かかりつけ医への受診や行きつけの美容院への外出をされる方もおり、関係性が途切れない支援に努めている。	昨年夏に感染症が発生して以来、マスクの着用や時間、場所、人数を制限した面会をホーム便りなどを通じてお願いしている。調査当日も家族同行で受診された入居者もあり、医療機関受診や馴染みの美容室利用を支援している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係性を把握し、食事の席等の配置を考えている。孤立しないように職員が間に入り、円滑な人間関係が構築出来るよう、支援している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて契約終了になった方及びその家族からの相談を受けている。退居時にも、その旨を伝えており、関係性を保持している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話内容や生活状況の中から本人の思いを汲み取り、意向の把握に努めている。汲み取った情報は、職員間にて共有し、本人本位に近い形で検討を行っている。	「節水」、「人間はひとりでは生きられない」など、恒例の書初めが洗面所前に大きく掲示されている。夕方なると「男所帯なので心配」「息子に会いたい、電話してくれ」など再三訴える入居者は、言動を否定しない支援で、笑顔になったり穏やかに昼食をとっている。	理念の「残された力で暮らしの喜びと穏やかな安心と満足ある暮らし」を実現するために、フェースシートに生活歴や職歴、家族構成、趣味や嗜好品等の詳細な情報の記載や、日々の関わりを通じて把握した情報の追記を期待します。
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴等を本人及び家族から情報収集し、困難な場合は日常のケアの中で生活歴を掘り起こせるよう、努めている。本人らしい暮らし方に近づけるよう、心掛けている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子は申し送りやケース記録等で把握し、迅速な情報共有に努めている。状況に応じミーティングを実施。特に体調面の不調を訴えることができない方が多いため、常時観察に努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人及び家族との関わりを深め、要望の聞き取りや、課題の明確化に努めている。各関係者も含め意見とニーズを照らし合わせながら共有し現状に即した介護計画に努めている。	かかりつけ医の指示でベット上安静やインスリンの自己注射を支援し、既往症の重度化を防止している入居者の居室に頻回に訪室し、夜間の不穏状態やオムツ外しに対処している。本年度から認知症チームケア加算シートを活用し、理念の「その人らしい暮らし」の実現に取り組んでいる。	担当者会議で、かかりつけ医の指示や意見を共有し、BPSDの出現防止や早期対応を組み入れた現状に即した介護計画の作成を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録では、気づきの記録、情報共有の記録を取るように心掛けており、申し送りノート等への記載を行っている。職員間の共有から介護計画の見直し、ケア方法の検討に繋げている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	協力医療機関以外の受診等も、本人に適したサービスを家族の協力を得ながら、常に柔軟な方法や対応に心掛けている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事の中止は継続しているが、地域に向けてはいつでも協力と参加が出来るよう自治会と連携を図っている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の意向を伺いながら、かかりつけ医を決定している。基本的には入居前に通院していた病院を継続しており、受診支援も柔軟に行っている。状態変化時も同様に適切な医療が受けられるよう、常に支援を行っている。	協力医療機関の訪問診療や入居前のかかりつけ医への同行受診で、適切な医療受診を支援し、病状や受診状況は個別のホーム便りなどで家族に報告している。幻視や幻覚、暴言や暴力行為のある入居者は、紹介状を持参で近々専門医を受診予定である。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の健康管理や身体機能の変化に応じて、看護職員との双方で協働してケアにあたっている。24時間体制で相談や緊急時の対応指示の連絡が出来る体制を整備している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関との関係づくりはできており、必要な情報交換を行っている。カンファレンスの参加やリモート会議等の実施にて、治療方針や経過、事業所側での支援方法等を確認し、意向を踏まえながら早期退院に努めている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所の重度化及び看取り方針を説明し、意向を書面にて確認している。重度化の過程で発生する様々な課題は、本人及び家族、医療機関との協議により都度対応を行っている。	整備した重度化や看取り方針に沿って入居時や随時意向を確認しているが、殆どの家族が医療機関搬送を希望され、先日既往症の重度化で入院された入居者もある。協力医療機関での対応が困難な場合は、紹介先に紹介状がFAXされるなど、円滑な医療機関連携を構築している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な研修やミーティング等を通じて、AEDの使用方法や観察のポイントを押しさえ、急変や事故発生時に対する迅速な対応方法の周知徹底を図っている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練を年2回実施しており、風水害や地震等の訓練はBCP演習を別途実施。近隣住民への声掛けや関係施設の職員の協力を得ている。また、災害発生時には地域代表者へ連絡が行くシステムを構築しておりいる。	敷地内の系列事業と合同で実施した消防訓練では日中・夜間の避難時間を計測し、BCP机上訓練では備蓄場所や連絡体制を確認している。地元消防団員の自治会長や近隣在住の職員2名が災害時の協力依頼先や待機者となり、法人本部で備蓄を管理し、職員宿泊場所を敷地内の系列事業の宿直室としている。	情報共有や災害時の一時避難の受け入れなど、地域との協力体制を構築するために、運営推進会議でBCPの研修やシミュレーションについて報告されるとともに、市の防災体制に関する情報把握を期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「～さん」の呼び方を基本としているが、利用者本人の意思を尊重し、呼称するようにしている。硬すぎない関係性を大切にしながら、礼節ある対応に心がけ、声掛けや言葉遣い等、自尊心を傷つけないケアに注意を払っている。	「〇〇さん」と氏名での呼称を基本として、声のトーンに配慮した声かけを実践している。「監禁されている」など被害的な言動にも、穏やかな対応を実践している。運営者は訪室時のドアノックを機会ある毎に指導している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者とのかかわりの時間を大切にし、信頼関係が築けるよう努めている。利用者の要望や希望から自己決定できるよう支援し、表出が困難な利用者には表情や行動から思いを察し、希望に添えるようにしている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな一日の流れは決まっているが、基本となる生活習慣を守りながら、利用者個人のペースを尊重した支援を行っている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った衣類や着用する洋服選びの手伝いやアドバイスを行っている。関係施設合同の美容イベントで美容師を招き、その人らしいお洒落が楽しめる時間を提供している。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事イベントや行事食はを定期的実施しており、豪華メニューは利用者全員の楽しみとなっている。誕生日には、極力本人が好きな食べ物を提供するようにしており、好評である。	ホーム便りには中華おせちのオードブルや誕生日のケーキを前にしてご満悦の写真が掲載されている。自分で食べられるように一口大やミキサー食を用意し、声かけや介助を受けて夫々のペースで完食している。調査日は昼食のカレーを箸で器用に食べる入居者が多かった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスの摂れた食事メニューを提供し、状態に応じた支援を行っている。食事や水分摂取量、体重の増減や食事形態の変更等の確認を日々観察し、対応にあたっている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、必ず口腔ケアを実施。義歯の洗浄も細目に行ない、可能な限り自己にてブラッシングして載っている。状況に応じて訪問歯科医の管理指導を受けており、感染症や肺炎予防にも繋がっている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	トイレ誘導介助を主体に、排泄パターンに合わせながら極力オムツに頼らないを使用しないケアを実行している。殆どの方がトイレでの排泄を継続できており、自立支援に向けた支援が行えている。	排泄パターンに沿った声かけや誘導で、トイレでの排泄を基本としている。尿意や便意の有無をアセスメントし、「(失禁する)本人が一番辛いと思う」と、抵抗や暴言となる気持ちを察し、着替え等を手早く介助している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防の為、食物繊維を多く含むものや乳酸菌飲料の提供等の工夫をし、腹部マッサージや適度な運動への働きかけを行っている。緩下剤に頼らず、主治医と相談しながら自然排便が出来るよう対応に努めている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	本人の状況に合わせて、入浴日は事業所側で決定しているが、利用者個人のペースでゆっくりと入浴を行える環境を整えている。入浴中はリラクゼーションが図れるよう、音楽を流したり入浴剤の使用を行っている。	冬場は脱衣場にヒーターを持ち込み、ヒートショックを回避し、清掃の行き届いた広く明るい浴室には大きめの個浴槽が設置されている。同性介助の希望はないが、脱衣や洗身介助を拒む入居者にはドアの外から声をかけて安否を確認している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	リビングと居室を自由に過ごせる環境にしており、個々に合わせて休息する時間を設けている。安眠確保の観点から照度や室温、音への配慮も行い、リラックスできる環境形成に努めている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の内服薬説明書をファイリングし、全職員が把握出来るようにしている。変更があった場合にはその都度、申し送りを徹底して共有し、経過観察を行っている。服用後の異常等あれば主治医に連絡し、指示を仰いでいる。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に応じた日常生活の役割があり、職員と一緒に楽しみや気分転換が共有できるよう、努めている。また嗜好品を切らさない声かけ、購入する支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々の状況に合わせてながら買物等の個別外出を支援している。外出行事では道の駅ドライブ等、外出行事の企画を継続して実施している。屋外での花見やお茶会、毎日の散歩と日光浴等、職員と一緒に楽しみが継続できるよう支援を行っている。	医療機関受診だけではなく、地域の店舗で個別の嗜好品や日用品の購入を支援したり、ドライブなどの外出を企画している。日頃は散歩を日課とし、ホームの飼い犬と散歩したり、園庭の桜を愛でるなど、楽しく気分転換を図っている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭を所持している利用者はいないが、物品の購入や支払いがある際は、可能な限り本人の手からお金を支払う行為を支援している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	日頃から手紙や電話のやり取りが行えるよう、関係の継続に努めている。(職員の代筆、代電含む)		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感に合わせた装飾や利用者協働で作成した貼絵をリビングに掲示しており、各々が好きな場所でゆっくり過ごせるようにソファを設置している。音や光、室温等は常に職員が気に掛けその都度快適に過ごせるように配慮している。	眼下の集落や周囲の四季折々の風景が楽しめる居間の大きな窓は面会の場所となり、春の到来を待って桜のタペストリーなどが飾られた居間で体操に励み、演歌を聞きながら寛いでいる。廊下の壁に掲示された迎春を祝う宴や誕生会の様子、七夕交流会の記念写真、七夕飾りや小学4年生の顔写真付き貼り絵などから、理念の「楽しい雰囲気」が伺える。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや椅子等を配置して、思い思いに過ごせる場所に配慮を行っている。気の合った利用者同士の談話やゆとりを持って過ごせる時間を大切にし、時に職員が間を取り持つなど工夫している。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使用していた家具や馴染みのある調度品、衣類を本人及び家族と相談しながら持ち込んでいただけるようにしている。本人の要望を聴きながら写真や家具を配置し、本人が居心地よく過ごせるよう支援を行っている。	居室入口に表札が掲示され、整理整頓され清掃が行届いた居室は筆筒が持ち込まれ、歩行器や車イスを設置している。壁にはお祝いのカードや折り紙の作品などが飾られ、居心地良い暮らしを支援している。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	事業所内は車椅子・歩行器等、動線のスペースが確保されており、廊下には手摺が配置されている。利用者の方々の能力を理解し、安全かつ個々に合せた使用を行っている。		